

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

### 「マンガグローブ」ダイジェスト版 第17回

あの「週刊現代」連載記事が【マンガグローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

#### インタビュー (2) 革マル派の学園支配を断ち切った8年間の闘い

前早稲田大学総長・奥島孝康氏

そこで、奥島氏は法学部長に就任して3年目の93年、「悪しき慣習」を打ち破るために革マル派に“宣戦布告”した。奥島氏が続ける。「それまでの法学部では、革マル派が自治会でストライキを決議したら、もう試験はやってはいけないんだと諦めていました。しかし私はそうではない、と考えた。憲法に保障された労働者の権利であるストライキと違って、大学の自治会のそれにはなんら、法的根拠がない。第一、大学というのは、学生に対して教育サービスを提供する契約をしているのだから、試験をやらないと、われわれが責任を問われることになる。法学者なのだから、法に従って粛々と行おう、と期末試験を実施したのです」そして奥島氏は、法学部の学生に、事前に「通常どおり、期末試験を行う」と通達し、試験当日は法学部の教職員を総動員して期末試験を決行した。この20数年ぶりの期末試験の実施に、革マル派系全学連も総力を挙げて抵抗したという。奥島氏が語る。「革マル派は試験を妨害するため、全国から活動家を動員してきました。彼らは全国各地からリュックを担いできていました。お昼になると、パンや弁当まで配られていました。しかも『全学連』とは名ばかりで、実際は40～50代のとても『学生』には見えない者ばかりでした。それらの革マル派活動家が教室前でピケを張り、学生や教員を入らせないようにしたのです。しかしわれわれは、今までと違って、学生たちに『試験を受けないと卒業させない』—と断っていました、そして私は、それを職を賭しても実行しようと思いました、最後は『肉弾戦』になり、女性教員も一緒に闘ってくれました。2人が怪我を負いましたが、それでも試験を行ったのです。それで学生たちも、われわれが本気だということがわかったのでしょう。一部の学生が、革マル派の制止を振り切り、試験会場に入ったものだから、それを見た他の学生たちも雪崩を打ったように教室に入ってきた。すると今度は革マル派の連中までも試験会場に入ってきて、マイクを持って『試験をやめろ』、『ストライキが決議されたじゃないか』と叫ぶ。つまり学生たちに『ストライキ決議を守れ』というわけです。しかし学生からすれば、革マル派よりも、試験を受けずに卒業できないほうがもっと怖い、だから誰も彼らの言うことなど聞かなかった。実はそれまで、試験が行われなかった責任の一端は学生たちにもありました。革マル派系自治会のストライキの趣旨には賛成ではないけど、試験は受けたくない。だから学生たちは決起集会をのぞきに行く。そうすれば決議に必要な数がそろって成立してしまう。革マル派は、そういう学生の心理を巧みに利用していたんです」この20数年ぶりの法学部での期末試験決行が前例となり、翌年から他学部でも平常どおり期末試験が行われることになった。

【マンガグローブ（講談社）P.320～P.322】